

さぬき・東かがわ支部活動報告

1 研究主題

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成
ー主体的・対話的で深い学びを支える
メディア教育の推進ー

2 研究主題のねらい

この数年、どの学校においても、タブレット PC や校内無線 LAN の整備が進み、生徒や教師がどの教室でもネットワークにアクセスできるようになってきた。その結果、情報メディアを上手く活用することができれば、学習をよりわかりやすく、また、深いものにすることができ、生徒の主体性も伸長することがわかってきた。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症予防による臨時休校が年度開始早々から行われ、その結果、他郡市では「オンライン授業」の試みが行われたり、我がさぬき市・東かがわ市においても「GIGA スクール構想」が当初の予定よりも早く実現化されようとしたりするなど、ICT 教育の必要性がかつてないほど指摘されている。

そこで、急速に整備が進む ICT 環境を生かし、「オンライン授業」等にも対応できるような力を身に付ける研修を行うと共に、生徒がメディアを活用して深い学びを行うことができる方法等についても考えていくこととした。

3 研究計画

(1) 第 1 回研修会

- ① 日時：5 月 1 日（金）
- ② 場所：さぬき市立さぬき南中学校
※新型コロナウイルス感染症予防のため開催は中止し、紙上により計画等を伝達
- ③ 内容：研究主題・組織・計画の決定
 - ア 実技研修会の内容について
 - イ 各学校の現状について

(2) 第 2 回研修会

- ① 日時：7 月 28 日（火）
- ② 場所：東かがわ市立大川中学校
※新型コロナウイルス感染症予防のため中止

(3) 第 3 回研修会

- ① 日時：10 月 9 日（金）14:00～16:25
- ② 場所：e-とびあ・かがわ
- ③ 内容：講義・実技研修
 - ア オンライン会議ツール／オンライン授業について（講義）
 - イ オンライン授業配信実習（実習）
 - ウ 情報交換

4 実践内容

(1) 第 3 回研修会

- ① 研修テーマ
「オンライン会議／授業」
- ② 研修の内容
 - ア オンライン会議ツールについて（講義）



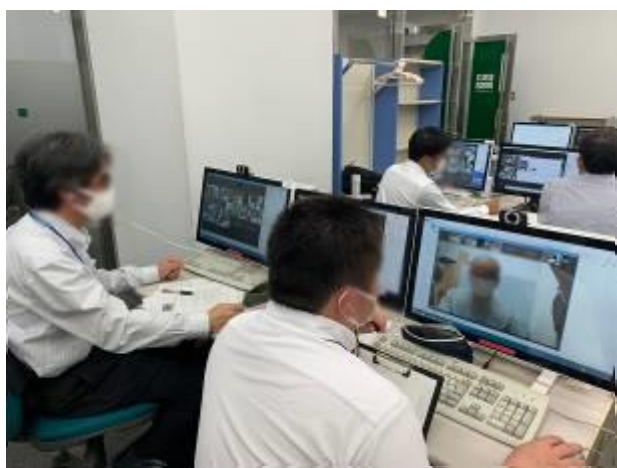
e-とびあ・かがわ ICT 普及リーダーの釜野氏を講師に「オンライン会議」の方法とそのツールについての講義を受けた。

現在、脚光を浴びている「オンライン会議ツール」であるが、これは昔からある技術であることや「ホスト」と「参加者」の

2つの立場に分かれるが、授業において教員は「ホスト」となり、以下の手順でミーティング（授業）を開催する。

- ・ミーティングをスケジュールリングする。
- ・URL、ID、パスワードを会議毎に参加者に知らせる。
- ・ミーティングを開く。
- ・参加者はURL からミーティングに参加。
- ・ホストは「ビデオの開始」をクリック。

また「オンライン授業」の種類には「オンデマンド授業」「疑似ライブ授業」「ライブ授業」の3種があり、「双方向性」があるのは「ライブ授業」であるが、操作に習熟が必要とされる。



イ オンライン授業配信実習

各学校が用意してきた教材を基に配信実習を行ったが、以下のような問題があった。

- ・一方方向の授業になりがちであった。
- ・双方向の授業にしようとした時に、操作に手間取った。
- ・音楽の授業を試みようとしたが、音質に問題があり鑑賞の授業には不向きだった。

ウ 情報交換

東かがわ市では、2学期になり「GIGA スクール構想」が具体化した。導入される機器のスペックやソフトは以下の通りである。

【タブレット】

- ・OS : Windows10 Pro Education、
- ・パネル : 10.1 型 ・カメラ : 200 万画素、
- ・CPU : Celeron N4000 1.10GHz、
- ・メモリー : 4GB ・HDD : 64GB

【ソフト等】

- ・Word ・Excel ・Power Point
- ・Microsoft Teams ・NHK for School
- ・Scratch ・One Drive

5 反省と今後の課題

(1) 今年度の研修について

「オンライン授業」についての講義や実習については、その必要性を感じていながらも研修の機会が無かった教員も多かったため、その概要をつかむことができ、有意義なものとなった。

しかしながら、あくまでそれは「入り口に立った」というものであり、それだけでサブテーマにある「主体的・対話的で深い学び」が実現できるものではない。効果的な「オンライン授業」とはどのようなものであるかについては継続的な研修が必要である。

(2) 来年度へ向けて

コロナ禍の影響で実現が早まった「GIGA スクール構想」は、東かがわ市では2020年内に基本的な整備が完了し、さぬき市でも生徒1台のiPadの導入や環境の整備が年度内に完了する予定である。それ自体は喜ばしいことであるが、その活用や管理方法において、多くの課題や問題が指摘されている。

例えば「教員研修」の問題である。限られた現職教育の時間をいかに効果的に利用していくかについて、メディア教育主任と現職教育主任との連携が必要になるだろう。また、普段から、機器の活用が堪能な教員が、その実践を公開したり、機器やアプリの利用方法を教授したりするなど、開かれた形での研修が必須となってくると思われる。

また、先にも述べたように、例え、機器やアプリの操作に習熟できたとしても、それだけで「主体的・対話的で深い学び」が容易に実現できるとは思えない。そのためにも、新学習指導要領における各教科や特別活動、道徳、総合的な学習の時間の目標とメディア機器の活用について、その原点に戻って考察し、実践を積み必要があると考え。